

学部名	農学部	学科名	地域創成農学科
-----	-----	-----	---------

地域創成農学科のDP(ディプロマ・ポリシー)

DP1	知識・理解	農産業を基盤とした地域創成に求められる農業生産、食品化学・加工および農業経済・経営分野の技術と理論を身に付け、それらの重要性を就業経験等実習の場で理解して体得し、地域をつつむ自然生態やグローバル経済など国内外の諸情勢をも踏まえた総合的な知力と理解力も備えている。
DP2	思考・判断	自らの判断により能動的に取り組む実学中心の科目を体験することで、地域創成で直面する様々な課題解決のための企画力、思考力および判断力を身に付けている。
DP3	技術・行動	専門的な技術、理論や情報を学習した基礎的能力を踏まえて、フィールド実習、インターンシップや農食コープ教育などを通じて実践力を培い、確かな技術や理論に基づいた地域社会の創成に対する的確な判断と行動力を身に付けている。
DP4	態度	地域創成活動を通じて、地域社会を愛し、人々と協働することの大切さを知り、また、意見集約のために人の意見を良く聞いて意見交換を十分行い、問題点を的確に把握する態度を身に付けている。また、それら問題点を解決するための構想力と企画力を発揮するために、可能な限り多くの的確で有用な情報を得る必要があり、そのための不断の努力を怠らぬ姿勢を備えている。

※学科のDP達成のために、特に必要な事項◎、重要な事項○、望ましい事項△

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
総合A群	吉備国際大学の学び	吉備国際大から世界へ	2	1	吉備国際大学の教育目標「日本人としてのメンタリティと国際人としてのセンスを兼ね備え、豊かな人間性を有する、社会に優位な個性ある人材の育成」の一環として行なわれる授業。したがって本講義は、本学教育の序論に位置づけされており、地域とともに世界の文化や社会の多様性を学ぶことにより、地域に根差しながらグローバルに活躍できる国際人の素養を身に付け、本学学生として求められる知的基盤をや培うことを目標としている。				◎
		地域学概論	2	1	地域の諸問題については、高梁市の各部局より講師を招き高梁市の現状と今後の問題点を教授して貰うとともにグループ討議を行い、積極的に問題解決能力を養う。 また、地域でボランティアを行っている学生より体験談を聞き今後の地域社会への貢献について考える。	○	◎		
		地域貢献ボランティア	2	2	キャリア教育の一環として社会人基礎力を身に付けるために、地域貢献ボランティアをおこなう。具体的には、ボランティアの社会的役割やボランティアの意義、活動時の注意事項等について学んだのち、地域から要請を受けたボランティア活動を10コマ分(20時間以上)行なう。ボランティア活動は、ボランティア活動予定表(5月～1月末まで)から活動時間合計が20時間以上になるよう選択し、活動をおこなう。その後、ボランティア活動報告書(1,000字以上)を作成し、グループに分かれ発表を行う。			◎	○
総合A群	キャリア教育科目	キャリア開発Ⅰ	2	1	テーマ：自立支援 職業観 人生観の確立 到達目標：キャリア開発Ⅰでは、自らの人生設計を立て、将来の目標を設定します。たくさんある選択肢の中から自分の職業に対する進路をしっかりと決めること。具体的には、考え抜く力、諦めない気持ち、周りを巻き込む力を身につけます。グローバル化が進み、価値観の多様化する現代社会では、①②③の力が求められています。他者から意見を求められたとき、状況判断(空気が読めて)ができ即答できるコミュニケーション力を備えます。同時に、自分の考えを5W2Hで伝えることができる会話術を身につけます。これを到達目標とします。				◎
		キャリア開発Ⅱ	2	3	自己の職業適性を発見する力・業界職種等を分析する力を身につけ、自分に適した職業進路を具体的に選択する。また、就活実践のために具体的能力を訓練し発揮できるようにする。そのため、一般社会で身につけておくべき自主性や責任感、社会人としての一般常識や教養、分別、協調性や能力を再確認し実質的なものにする。				△
総合A群	情報教育科目	情報処理Ⅰ	2	1	学生生活に必要なコンピュータスキル・情報活用力をテーマに座学と実習を組み合わせた授業を行う。 OSの基本操作・ネットワークの基本操作・文書作成ソフトによる高度な文書作成、基本的なデータ解析の基礎を習得すること、さらに効果的なプレゼンテーションの構成・発表の基礎を理解することを目標とする。				○
		情報処理Ⅱ	2	1	学生生活に必要なコンピュータスキル・情報活用力をテーマに座学と実習を組み合わせた授業を行う。 基本的なデータ解析の基礎を習得すること、さらに効果的なプレゼンテーションの構成・発表の基礎を理解することを目標とする。				○
総合A群	言語教育科目	英語Ⅰ	2	1	実践的な英会話への基礎的トレーニングを目的とした授業である。テキストはMacmillan Language Houseの「Keep Talking」を使用し、英語でコミュニケーションを図るために必要な「文化による考え方の違い」「外人関係に配慮した表現の知識の重要性」について学ぶ。				△
		英語Ⅱ	2	1	実践的な英会話への基礎的トレーニングを目的とした授業である。テキストはMacmillan Language Houseの「Keep Talking」を使用し、英語でコミュニケーションを図るために必要な「文化による考え方の違い」「外人関係に配慮した表現の知識の重要性」について学ぶ。				△
		英語Ⅲ	2	2	これまでに学んだ英語の基礎を定着させながら、さらに多くの重要表現を身につける。まとまった量の英文の内容を正確に理解できることを目指し、長い文章が音読で理解できるようにする。				△
		英語Ⅳ	2	2	これまでに学んだ英語の基礎を定着させながら、さらに多くの重要表現を身につける。まとまった量の英文の内容を正確に理解できることを目指し、長い文章が音読で理解できるようにする。				△
		中国語Ⅰ	2	1	テーマ「入門 発音 文法基礎」 ピンイン表記と発音のコツを身につけた上で、挨拶や自己紹介などの簡単な日常会話を通して、文法の基礎を身につけることを到達目標とします。				△
		中国語Ⅱ	2	1	テーマ「発音 会話 読解」 ・発音がしっかりできるようにする ・語彙を増やす ・単語の意味、用法、文の構造を理解できるようにする				△

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
総合A群	言語教育科目	中国語Ⅲ	2	2	中国語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論を指導(検定試験対応・前篇)する。中国語検定試験準4級に出題されている問題を解くために必要な文法事項を理解し、語彙力や会話力や読解力を身につけて実際に検定試験準4級に挑戦することができるようになる。			△	
		中国語Ⅳ	2	2	会話を中心とした日常レベルの中国語を発音したり聞き取ったりできるようになる。			△	
		日本語ⅠA	2	1	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。「日本語能力試験」N2程度以上の実力を確実に修得することを目標とする。			△	
		日本語ⅠB	2	1	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。「日本語能力試験」N2程度以上の実力を確実に修得することを目標とする。			△	
		日本語ⅡA	2	2	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義では特にN1レベルの「文法」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。			△	
		日本語ⅡB	2	2	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義では特にN1レベルの「文法」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。			△	
		応用日本語ⅠA	2	1	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。「日本語能力試験」N2程度以上の実力を確実に修得することを目標とする。			△	
		応用日本語ⅠB	2	1	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。「日本語能力試験」N2程度以上の実力を確実に修得することを目標とする。			△	
		応用日本語ⅡA	2	2	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義ではとりわけN1レベルの「読解」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。			△	
		応用日本語ⅡB	2	2	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義ではとりわけN1レベルの「読解」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。			△	
		日本語研究ⅠA	2	1	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。「日本語能力試験」N2程度以上の実力を確実に修得することを目標とする。			△	
		日本語研究ⅠB	2	1	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。「日本語能力試験」N2程度以上の実力を確実に修得することを目標とする。			△	
		日本語研究ⅡA	2	2	これから始まる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。履修時にプレースメントテストを実施し習熟度別(初級・中級・上級)クラス編成を行う。初級クラスは「日本語能力試験」2級程度以上の実力を確実に修得し、中級クラスは同試験の1級取得を目標とする。上級クラスは、更なる実力の向上を図る。			△	
		日本語研究ⅡB	2	2	これから始まる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。履修時にプレースメントテストを実施し習熟度別(初級・中級・上級)クラス編成を行う。初級クラスは「日本語能力試験」2級程度以上の実力を確実に修得し、中級クラスは同試験の1級取得を目標とする。上級クラスは、更なる実力の向上を図る。			△	
総合B群	人間性の涵養	文章表現入門	2	1	テーマ:文章が簡潔に論理的に書けて、読み手に正確に伝えられること。 到達目標:各種の文章形態を理解し、文章表現方法の法則と方策を修得します。さらに、課題に適切に論述し、データや分析、数値化された内容を付記し、説得力のある表現力を養います。 論理的とは①主張と理由の関係、②構造という関係、③因果関係の考え方に基づいて書くことをいいます。具体的には、①「主張。なぜならば、理由」や「理由。だから主張」の関係は、推論・推理の考え方に基づいて書きます。②構造という関係は要素構造によらない関係を構造といえます。③因果関係は原因と結果をいい、④順序・分類の関係は、時間の経過によって書くなど、練習を重ねることで5W3H(いつ、どこで、誰が、何を、なぜ、どのように、数値、単価)を明確に書けることが到達目標です。			△	

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
総合B群	人間性の涵養	文学への招待	2	1	詩・短歌・俳句・小説等の文学作品を読み鑑賞することを通して、作品中の人物の生き方や心情を追体験することによって、自身の生き方を多用で豊かなものにしていくことを目的とする。鑑賞や討論の過程において、文学作品に扱われている巧みな言語表現、構想などを自己のものにし、言語表現能力の向上をめざす。		△		
		美術の見方	2	1	美術の感動と関心がより身近なものとなり更に人生が豊かなものになることを実感する。		△		
		音楽のたのしみ	2	2	テーマは「音楽とは何か」。人類は、なぜ音楽を創り出し、そして継承してきた。現在音楽は、生活の様々の場面まで深く浸透している。しかし、冒頭の問いに直ちに的確に答えることはできない。本講座では、人と音楽との関係、音楽そのものについて考察し、冒頭の問いに対して自分なりに回答できるようになる。		△		
		生涯スポーツ論	2	1	健康についての意識を高め、自らが、実践していく力を養う。また生涯スポーツについての基礎知識を習得し理論と実践に向けたカダを見つけ問題意識を育てていきます。		△		
		生涯スポーツ実習	1	1	生涯スポーツとして人気の高いテニスの実習を通して技能の上達度を見る。(技能上達の過程の重視) シングルス・ダブルス・ミックスダブルス・A級・B級などそれぞれのレベルに応じて楽しくコミュニケーションをとってゲームができるようになる。			△	
	世界認識・自己理解	哲学	2	1	哲学的なものごとの捉え方、哲学でな問いの立て方を学んでほしい、哲学はあらゆる学問の根底にある学問として独自の問いの立て方をし、独自のなんものごとの捉え方をする。そうした哲学的な至高の仕方をこの授業を通して学んでほしい。		△		
		宗教学	2	1	都市化され情報化された社会の中で、失われつつある自然と人間の間ではぐまれてきた伝統的感性の存在に気づき、それを再確認し、私たちの無意識がどこにつながっているかを考え、自然と人間の関係を新たに理解することを目標とする。		△		
		倫理学	2	2	我々にとって身近な「暇と退屈」を分析する。暇はあるが退屈はしないという、よき人生はどのようなものか考える。そして学生各位に自分固有のよき人生への指針を与えることが目標である。		△		
		心理学	2	1	テーマと到達目標:「なぜ人は幽霊を見るのか?」「なぜ人は金縛りにあうのか?」「記憶は嘘をつくか?」「血液型で人の性格は決まるのか?」など、日常的・非日常的な行動を取り上げながら、感覚・知覚を含めた人の行動の特性、さらに人の発達について理解を促進し、自己理解や他者理解を深める。 到達目標:① 感覚・知覚・記憶・知能・学習・性格の各領域について基礎的知識を得る。② 自他の行動を客観的に捉えられるようになる。		△		
		多文化理解	2	1	「世界の文化の多様性を理解する」をテーマに、私たち日本人にはあまり馴染みのないアラブ・イスラーム社会をとりあげる。具体的には、①イスラームの理解に不可欠なアラビア語の基礎、②西アジア史、③イスラーム文化、④近・現代のアラブ社会について理解する。そして、文化の多様性について興味をもてるようになることを到達目標とする。		○		
	社会と制度	日本国憲法	2	1	<到達目標> 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べることを目指す。 「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。 <テーマ> 難解とされる日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。		△		
		民法	2	1	民法は社会人として自己の完成を目指す上で有効に役立てることができる必要不可欠な教科である。そのため社会生活に必要な法的なものの考えを理解することを到達目標とする。		○		
		経済学	2	1	経済学の基本的な考え方や基礎理論を修得し、農業に関する諸問題を経済的に捉えるために必要な能力を身に付ける。		○		
		社会学	2	2	本講義の到達目標としての掲げる中心的テーマは以下のようである。 ①社会学に関する、基礎的な考え方・見方を身につける。 ②人の生活や一生について、社会学的な視点から理解を深める。 ③身の回りの出来事を、社会学的な視点から分析できるようにする。		○		
		人権と政治	2	2	●授業の到達目標及びテーマ:世界レベルで問題となっている、様々な「人権」について、標準的な知識を身につけることを目標とする。		△		
		社会と統計	2	1	この科目の到達目標は、統計データが示す社会現象の趨勢と現状を知り、社会を把握するモノの見方を習得することである。取り扱う事項は、自殺、人工妊娠中絶、いじめの3つである。		○		
	自然と数理	環境科学	2	1	テーマ:環境問題の歴史における問題の構造と時代背景について理解し、現代の環境問題について考える。 到達目標 1)各時代の環境問題の事例を列挙し、説明できる。 2)各時代の環境問題が発生した時代背景について、説明できる。 3)各時代の環境問題に対して、どのような対策がとられてきたのか、説明できる。 4)過去の環境問題の構造と現代の環境問題の共通点と相違点について、説明できる。 5)環境問題が農林業におよぼす影響について説明し、その対策について、自分の見解を述べるができる。		○		
		物理学	2	1	物理学の基礎である力学の基本的な考え方を学ぶことを通じ、自然「身の回りの現象の本質を数式で表現することを通じて、さまざまな現象に対する物理的な視点を養うことを目標とする。		○		

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
総合B群	自然と数理	生物学	2	1	生命の全体像の理解を深めることをテーマとし、以下の6つの到達目標を設定する。 1) 生物と無生物の違い、生物の条件について、説明できる。 2) 生命の階層構造と階層間の関係について説明できる。 3) 生命を構成する物質/器官の構造と機能について説明できる。 4) 用語の定義と関連用語の違いについて説明できる。 5) 生命を維持するためのしくみについて説明できる。 6) 学んだ生物学の知識に関連した社会問題を列挙することができる。		◎		
		化学	2	1	身の周りの現象や物質をテーマにそれらを化学する力を養うことを目標とする。		◎		
		人類生態学	2	3	人類生態学の視点から、ヒトの環境への適応を理解することができる。		○		
		統計学	2	2	統計学の基礎概念を、実例を通じて習得し、将来の応用を目指す。		○		
		数学	2	2	医療系の学習を進める上で将来必要となる数学的知識の習得		△		
総合C群	地域連携講座	南あわじ農業学	2	1	全国有数の農業生産地である南あわじ地域の農業の現状や発展経過、たまねぎやレタスなどの生産技術、また関係機関や関係業者の取り組みや支援体制などを知り、地域全体での産地づくりについて理解する。 またこれにより、南あわじ地域の今後の農業生産、流通、加工および農村地域の活性化などについて提言できるようになる。				◎
		日本の伝統技術Ⅰ(文)	1	3	淡路島の伝統文化である「淡路人形浄瑠璃」と「だんじり唄」を取り上げ、どちらも地域伝統文化に対する理解を深めるとともに、実際に体験することによって、その魅力や味わいを実感する。		△		
		日本の伝統技術Ⅱ(武)	1	3	「礼に始まり礼に終わる」武道の精神を身に付けるとともに、「和の武道」と呼ばれ、また、「動く禅」とも言われる合気道の歴史やその理念を理解させる。		△		

学部名	農学部	学科名	地域創成農学科
-----	-----	-----	---------

地域創成農学科のDP(ディプロマ・ポリシー)

DP1	知識・理解	農産物を基盤とした地域創成に求められる農業生産、食品化学・加工および農業経済・経営分野の技術と理論を身に付け、それらの重要性を就業経験等実習の場で理解して体得し、地域をつつむ自然生態やグローバル経済など国内外の諸情勢をも踏まえた総合的な知力と理解力も備えている。
DP2	思考・判断	自らの判断により能動的に取り組む実学中心の科目を体験することで、地域創成で直面する様々な課題解決のための企画力、思考力および判断力を身に付ける。
DP3	技術・行動	専門的な技術、理論や情報を学習した基礎的能力を踏まえて、フィールド実習、インターンシップや農食コープ教育などを通じて実践力を培い、確かな技術や理論に基づいた地域社会の創成に対する的確な判断と行動力を身に付けている。
DP4	態度	地域創成活動を通じて、地域社会を愛し、人々と協働することの大切さを知り、また、意見集約のために人の意見を良く聞いて意見交換を十分行い、問題点を的確に把握する態度を身に付けている。また、それら問題点を解決するための構想力と企画力を発揮するために、可能な限り多くの的確で有用な情報を得る必要があり、そのための不断の努力を怠らぬ姿勢を備えている。

※学科のDP達成のために、特に必要な事項◎、重要な事項○、望ましい事項△

授業科目	単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
専門基礎科目	地域創成農学概論	2	1	春	地域創成農学に関する諸専門領域の概論を幅広く学び、以後の専門的学習における動機付け(エンカレッジ)を目的とする。	◎		
	基礎演習Ⅰ	1	1	春	「大学で学ぶための基礎」をテーマとして、文書作成や図表理解の能力を学び、大学で自ら学ぶための方法を身につけることを到達目標とする。			◎
	基礎演習Ⅱ	1	1	秋	「自己理解と自己実現」をテーマとして、思考力・表現力・検討能力などの向上、文献検索法、レポート作成法などの基礎を学習することで、学問へのアプローチ方法を身につけることを到達目標とする。			◎
	基礎演習Ⅲ	1	2	春	「課題探求能力・主体的判断能力の育成」をテーマとして、自主的学修のための基礎知識を身につけ、自らが課題を見つけることを到達目標とする。			◎
	基礎演習Ⅳ	1	2	秋	「知識に対する自己自身の姿勢を社会との関連の中で理解する」をテーマとして、討論やグループワークを中心とした演習を行い、学科の専門性を理解する能力を身に付けることを到達目標とする。			◎
	遺伝学	2	1	春	生物の複雑な生理現象の大半が遺伝的支配を受けていることを認識・理解するとともに、遺伝学の基礎を習得する。	◎		
	分子生物学	2	2	春	1) 遺伝子とは何かを理解できる。 2) DNA、RNA、タンパク質の構造が理解できる。 3) DNAの複製・修復機構の概要を理解できる。 4) DNAに保存されている遺伝情報がどのように発現されるか(RNAの転写、タンパク質の翻訳)を理解できる。 5) 卒業論文研究等で分子生物学的実験を実践できる基礎的学力を習得する。	◎		
	ゲノム情報学	2	1	秋	ゲノム情報を利用する基礎科学及び応用に関する具体的な事例を学びゲノム科学の重要性と面白さを理解する。授業においてゲノム中に莫大な数で存在し物の多様性と進化に重要な役割を持つトランスポゾンについての詳述を行う。	○		
	植物生理学	2	1	春	低肥料・低農薬投入型農業に関する問題点を掘り起こし、これらを解決するための方法について提案・解説を通して、これらの研究の現状と発展の可能性、さらに、それらを統括した世界的規模での低肥料・低農薬投入型農業の実現の可能性について考察する。	○		
	生物の進化と多様性	2	1	春	地球と生命の誕生、多様な生物の進化および地球生命共同体を形成する生物種について理解し、持続可能な地球生命体の維持における食料資源と環境保全資源としての植物の重要性を認識する。	○		
	農業技術政策論	2	1	春	戦中・戦後の主要な農業政策について学ぶ。また、日本および世界の農業・食料需給の現状と未来について学ぶ。さらに、農業の多面的機能、農業による医薬品の生産といった農業の新たな役割とそれらの効果あるいは可能性について学ぶ。履修によって、日本の農業、農業生産および食料安全保障のあり方、それらのための農業政策のあり方についての的確な判断ができるようにする。	○		
	現代農業論	2	1	秋	経済発展や農産物貿易の自由化に伴い日本農業がどのように変容し、食糧自給率が低下してきたかを整理する。次いでグローバル化の下でさらに進展する農産物貿易自由化と日本農業の構造改革とこれまでの成果、食糧安全保障政策についての理解を深める。	○		
	生物化学	2	2	春	生物を構成している生体分子の構造と機能について理解を深め、生体内での役割を総合的に理解する。	◎		
	有機化学	2	2	秋	有機化学の基礎知識取得により、生物や生命現象を分子レベルで理解できることを目標とする。	◎		
	食の安全学	2	1	春	食べ物の安全性を脅かす要因とその予防法について学習し、食の安全性確保に対する強い責務を自覚することを目標とする。	◎		
	生物学実験	1	2	秋	実験を通じて、生き物や生命現象に対する興味や関心を高める。卒業論文研究等の生物学実験を実践する際に必要な一般知識や基礎技術を習得する。			◎
化学実験	1	2	春	食品を構成している成分糖質、脂質、タンパク質、ミネラル、食物繊維、水分の分析定量方法を身につけることで、食品はヒトが食べるものであることを科学的に理解することを目標とする。			◎	
農業生産系科目	植物育種学概論	2	2	春	人間社会における育種(品種改良)の重要性について画期的成果を踏まえつつ、育種の基礎となる遺伝資源の収集・保存、変異の創成法や選抜法、およびこれらを支える基礎研究について理解する。	◎		
	植物育種学各論	2	2	秋	収量性の生理・遺伝、適応性の遺伝、生物学的ストレス耐性の遺伝、非生物学的ストレス耐性について理解する。前半では、コムギ、ダイズ、野菜および果樹の育成と遺伝について、後半では、イネ、トウモロコシおよびジャガイモの育種と遺伝について理解する。	○		
	栽培学	2	1	春	各種作物諸器官の外部形態・内部構造・生理学的特性について学ぶ。また、各種作物の土壌・水・光・ガス・温度等といった環境に対する反応特性について学ぶ。さらに、機械化技術を含めて、既存の主要な栽培技術について学ぶ。履修によって、作物の収量と品質を最大化できるような、播種・育苗から収穫調製に至るまでの栽培技術を構築するための基礎知識が習得できるようにする。	○		
	野菜園芸学	2	2	秋	種々の野菜の特性を理解し、特性に基づいた栽培体系を学ぶ。また、生産および消費動向を踏まえた資源としての基礎理論を習得する。	○		
	花卉園芸学	2	2	春	自生地は熱帯から寒帯まで、生育状況も多様であるため、その性質に応じた栽培法や利用についての知識や技術が要求されるため、花卉の種類、栽培、利用・植栽について理解する。	○		
	果樹園芸・熱帯植物学	2	2	秋	果樹栽培、香辛料植物およびランをはじめとする園芸用鑑賞植物について、その栽培の基礎知識と機能について身につける。	○		
	植物病理学	2	2	春	樹木を含む食物の病気とそれを引き起こす各種病原体、特に植物病の主たる原因となる糸状菌について理解する。	◎		

授業科目	単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	
農業生産系科目	総合防除管理学	2	3	秋	環境低負荷型の防除法を追求するため、病害、虫害および雑草害に対する防除効果を持つあらゆる方法を駆使して経済損失を被らない程度に被害を抑制する」という総合防除管理の考え方とその意義について理解する。	○			
	植物細胞生理学	2	2	秋	植物とその細胞の構造と機能、成長様式、物質代謝、遺伝現象などについて学習し、食料および機能性物質の生産と地球環境の保全を担う植物があらゆる生命を支える根源的役割を果たしていることを理解することを目標とする。	◎			
	植物バイオテクノロジー	2	3	春	一般的な科学論文を理解し、卒業研究に応用できる基礎知識の習得を目標に、植物バイオテクノロジーの歴史から最新の話題まで幅広く解説する。	○			
	施設栽培・植物工場論	2	3	春	野菜、花卉、果樹などの作物栽培分野における先端栽培技術である養液栽培や養液土耕栽培、並びに食物工場の理論と実際について理解する。	○			
	応用昆虫学	2	2	秋	農作物の生産にとって、害虫の制御と益虫の有効利用が重大な課題であることを理解する。	○			
	雑草学	1	3	春	水稻、畑作物、果樹、野菜、花卉・花木、工芸作物、飼料作物、林地、芝生、水生雑草についての管理法について理解する。	○			
	土壌肥料学	2	2	春	土の種類及びそれらの物理的、化学的、生物的性質について学び、生物生育と土壌の関係、特に土壌中の肥料成分の変化と植物への吸収機構・生育について理解する。	○			
	農薬学	2	3	秋	総合科学としての農薬学をテーマに、農薬について科学的理解を深めることを目標とする。	○			
	農業気象学	2	3	秋	物理法則に基づいてエネルギー収支と水・大気の循環から地球規模の気候システムを理解した上で、局所的さらに温室レベルの気象環境について基礎知識を修得する。	○			
	農業基盤の保全と管理	2	2	春	農業生産の基礎である農地および水路を含めた農業水利施設の設計施設技術、その基礎となる測量学や力学などについて理解する。	○			
	家畜とその飼養管理	2	2	春	わが国の畜産を支える家畜の歴史と生産体系ならびにその栄養生理学的特性を理解する。	○			
	家畜の育種と繁殖	2	2	秋	家畜動物の育種に係わる、野生動物の家畜化、家畜化による動物形質の変化、家畜改良の歴史、家畜の種と品種の分類、家畜育種の方法などの理解を目指す。	○			
	家畜の構造と病気	2	3	春	動物の構造や機能的特徴を理解するとともに、動物の疾病における原因、病気の成立、形態的变化や機能障害並びに感染症における病原体、発病機構及び疫学について理解する。	◎			
	家畜とバイオテクノロジー	2	3	秋	家畜の生産に関わる基礎的知識とそれらを発展させた新しい応用技術との関連を理解するとともに、新しい技術の利点にとらわれることなく、問題を冷静に見極める能力を培うとともに、利益主導型の思考にとらわれずに、食の「安全」、「安心」や「生命倫理」について考える習慣を養う。	○			
	食品化学・加工系科目	農産プロセス工学	2	3	春	農畜産物の生産から食品加工、更に流通、消費に至る過程では、品質の向上と食品安全性の確保のための様々な処理や技術がされている。それら広範囲の技術とその原理について理解する。	○		
生物統計学		2	3	春	植物や動物の携帯、生理、遺伝など、必要なデータを収集する方法や加工する方法などこれらに関する基本概念を理解するとともに、実際面での意義と利用上の問題点を鮮明にし、それらが誤りなく適用できるようにする。	○			
フィールド実習Ⅰ		1	1	春	イネ、ダイズ、主要葉菜類、主要果菜類の栽培技術の基本を習得し、人間社会における農業の重要性を学ぶ。畜産農家の見学を通して畜産動物の飼養・管理を学ぶ。			◎	
フィールド実習Ⅱ		1	1	秋	栽培管理技術の修得に加え、作物の生産過程における水、無機養分、エネルギーの動態を理解し、よりよい栽培技術の開発に向けた知識と技術を身につける。			◎	
栄養化学		2	2	秋	ヒトは食物を食べなければ生きていけない。日々の食物がヒトの健康と寿命を支配している。食物に含まれる糖質、脂質、タンパク質がどのようにしてヒトのからだのはたらきを調節しており、どのような食生活が健康を害するのかを、生理学的に理解することを目標とする。	◎			
食品機能分析化学		2	3	春	食品は栄養素の他に、ヒトのからだの機能を健全に維持する成分を多様に含んでいる。ビタミン、ミネラル、食物繊維、ポリフェノール、カロテノイドなどである。これらは微量で、ヒトのからだのはたらきを健全に調節している。これを三次機能性というが、食品成分の健康維持に好ましい機能性を、科学的に分析する方法を理解することを本講義の目標とする。	◎			
食品加工化学		2	2	秋	食品を構成している成分が糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル、食物繊維、その他の機能性非栄養素であることを学び、そのそれぞれがヒトの味覚などにはたらいていることを理解することで、消費者に美味しく、食べやすく、健康に好ましい食品を提供する方法を学ぶことを目標とする。	◎			
食品管理化学		2	3	春	食品は人が食べてその生命を維持するものである。したがって、食品製造に関わる者は、安全な食品を提供するという意味で、人の生命を預かっているという責務があることを理解することを目標とする。	◎			
食品衛生学		2	2	秋	食品の安全性を確保し、安全で安心な食生活を送るため、食品衛生行政と関連法規の内容を把握し、食中毒をはじめとする飲食に起因する健康障害に関する基本的知識を習得し、食品衛生上の諸問題に即応できる判断力と実践力を身につける。	◎			
微生物学		2	2	春	微生物(細菌、真菌(カビ、酵母)、ウイルス)の個々の特性を理解し、違いを認識する。微生物の有用・有害両面を理解するとともに、食品の安全性確保のための基礎的知識と制御法を習得する。病原体の種類と性質を理解し、感染症の予防に役立てる。	◎			
醗酵微生物学	2	3	秋	醗酵技術に関わる主な微生物の種類、機能、生理などを理解する。	◎				
農産物加工学	2	2	春	農作物は直接食用にされるものだけではなく、加工されて流通するものが数多くある。これら農産物加工品となる原料植物の特性と栽培・加工・流通過程を知ることを目的とする。	◎				
食肉加工学	2	3	春	本講義では、家畜の筋肉が死後の熟成による種々の変化を経て食肉に変換された後、利用されることを理解する。また食肉の構造と化学成分の特性に応じて製造される肉製品に関する知識を習得することを目標とする。	◎				
乳製品加工学	2	2	秋	本講義では、乳の生産過程および乳を構成する化学成分について理解し、乳成分の特性に応じて製造される種々の乳製品に関する知識を習得することを目標とする。	◎				
味と食感の科学	2	3	春	旨味や苦味といった味は、食品の美味しさを決めるのに重要な要素であるが、五感の一つである触感(食感)も食品の美味しさを定義する際の重要な要素である。本講義においては、食材の硬さや粘性、弾力性を測定し数値化することで美味さと食感の関係を明らかにしていく。	◎				

授業科目	単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	
農業経済系科目	農業経済学	2	2	秋	農業経済の現状と課題を整理し、経済理論や経営理論などを理解し、課題解決策を明らかにできるようにする。	◎			
	食品安全の経済学	2	4	春	食品問題の諸事例を検証しながら、食品問題の発生メカニズムを情報の経済学等の枠組みを用いて、食品問題が、「食品」という財の特殊性が引き起こす「市場の失敗」の事例であることを理解する。	○			
	農業経営学	2	2	春	農業経営の現状と課題を整理するとともに、経済理論や経営理論などを学びながら、それらの課題解決策を策定できるようにする。	○			
	農業経営情報論	2	3	秋	農業情報化の実態や情報の役割について学ぶとともに、基礎的なデータ解析手法を修得する。			○	
	農業計算学	2	3	秋	農業経営におけるマネジメントサイクル(Plan-Do-See)の意味と重要性を理解し、それを実践していくための農業簿記や農業経営分析、農業経営計画の理論と技術(手法)修得をする。	○			
	商業簿記	2	1	秋	農業経営において必要となる簿記の基礎的な知識を修得する。簿記は仕訳や記帳練習を繰り返し実践することが大切である。本講義においては「財務諸表」を作成し、数字を基に経営の状況を読み取る力を身につけ財務的センス、会計的センスを向上させる。	○			
	食農マーケティング論	2	3	春	地域創成のための食農マーケティングについて理解を深めるとともに、そのあり方を考察し、実践できる力を養うことができる。	○			
	フードシステム論	2	3	秋	農林水産業から食品製造業、食品卸売業、食品小売業、外食産業を経て、最終の消費者の食生活にいたる食料供給の一連の流れをシステムとして把握する概念であるフードシステムの内容について理解する。	○			
	地域産業複合体論	2	3	春	経済のグローバル化の進行下で農業が衰退し、農村地域が疲弊している中で、この対策として農村地域内で農業、工業、商業、観光業等が相互に連携・結合して地域資源の活用や付加価値の増加など地域活性化に重要な役割を果たしていることを理解する。	○			
	経済発展論	2	3	春	開発経済学の理論的枠	○			
	経済発展と農業問題	2	2	春	発展途上国が直面する食糧不足問題や人口爆発問題についてマルサスの人口論や人口転換命題を用いて、経済発展と農業発展の関係を理解する。	○			
地域創成系科目	国際関係と資源問題	2	1	春	紛争、環境破壊、資源を含めた富の再分配の失敗等に伴う貧困と格差など、こうした問題を領域ごとに議論をし、歴史的背景や課題を整理することで国際社会に関する基礎的な知識を身に付け、更には地球に暮らす一人ひとりの人間として、こうした問題にどのように向き合い関わっていくべきなのかを考察する。	○			
	地域調査法	2	3	秋	社会問題について、顕在的課題だけでなく潜在的課題を見つけ出す洞察力を発揮できるように社会思考力を身につける。	○			
	地域人口学	2	3	春	はじめに人口現象を正しく理解するために出生、死亡、人口構造などの人口指数を学び、次に人口に関する理解を修得し、事例をとらえて人口と社会との関連および地域的な多様性、今日の人口問題を理解する。	○			
	地域保健学	2	3	秋	国際保健学の視点から世界の保健状況を概観するとともに、世界的に進行する貧困や環境破壊、人権問題、健康格差など地球に住む私たちひとりひとりが関心を持って取り組まなければならない諸問題の本質について理解を深める。	○			
	地域社会学	2	3	春	農村部と都市部の違いを地域で暮らす人間を基準に、対人関係のありよう、家族・親族のありよう、協同と分業のあり方の違いを理解する。	○			
	農業開発社会学	2	3	秋	①農業の産業としての社会経済的特質の分析②産業としての農業と地域社会としての農村との社会経済的規定関係についての理論的枠組み③近年の国際化時代における日本農業・農村の発展のあり方について考察できる。	○			
	農業・食品業の地域ブランド戦略	2	3	秋	地域の農業・食品業等について地域ブランドの保護による産業競争力の強化と地域産業の活性化を目的とする地域団体商標制度を理解する。	○			
	食と農のデザイン論	2	3	秋	国際基準であるCODEX規格が策定され、我が国においてもJAS制度として発足している有機農産物の基準内容やそのつくりかたを保証する認定システムに関する知識を修得する。	○			
	山・里・海の連携学	2	3	春	身近な森林や草原、農地、河川や海などの生態系と生態系サービスについて学び、それらの人々の暮らしとの関わりを考察することができる。	○			
	森林生態管理学	2	2	秋	森林がもたらす生態系サービスと森林生態系を取り巻く諸問題について理解したのち、管理に必要な森林生態系の基礎知識、森林生態系の経済学について基礎理論、生態系評価、新しい環境政策手法などを修得する。	○			
	ランドスケープデザイン学	2	3	秋	鑑賞植物の栽培・展示に必要なデザイン手法と環境や管理水準に応じた植栽方法や技術についてのランドスケープ・デザインを考察する。	○			
専門応用科目	ソーシャルファーム論	2	4	春	ソーシャルファームの仕組みと事業内容について学び、日本国内における事例紹介を踏まえ、その可能性と課題について理解する。	○			
	地域マネジメント論	2	4	春	コミュニティレベルから国家レベルに至るまでの直接的・間接的な地域マネジメントに関するアプローチやその理由について理解を深める。	○			
	インターンシップ	2	3	春	社会人としての基礎知識を身につけるとともに、自分の進路について考え、大学生活を有意義に送るためにはどのようにすれば良いか、自分で考え行動できる能力を身につける。			○	
	食農コブ実習	2	4	春	教室で学んだ専門知識や技術が食と農の現場でどのように使われている、どの様な役割を果たしているか知る。			○	
	地域創成農学演習Ⅰ	2	3	春	研究テーマ設定を視野に入れ、専門領域における一般テキスト等を精読し、学術論文を読みこなすための予備知識を身につける。				◎
	地域創成農学演習Ⅱ	2	3	秋	地域創成農学演習Ⅰに引き続き、関心のある領域について、専門文献を収集し、内容を学術的に把握・考察できるようにする。				◎
	地域創成農学演習Ⅲ	2	4	春	「卒業研究の推進」をテーマとして、研究を遂行するとともに、卒業論文を書き上げるだけの基礎能力を身につける。				◎
地域創成農学演習Ⅳ	2	4	秋	「卒業論文の作成」をテーマとして、自分自身で考え、研究を遂行し、卒業論文をまとめ上げる。				◎	
課題研究	10	4	通年	地域創成農学演習Ⅱ・Ⅳと関連させながら、卒業論文のテーマに関連の深いレビュー研究、研究計画書作成、フィールドおよび社会調査、データの収集・解析などをおこない論文を完成させる。				◎	